



NPO法人 大谷石研究会

大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝えする大谷石研究会の広報誌

大谷石ミニまちあるきをおこないました。 — 宇都宮市にとって 大谷石は大切な観光資源 —

NPO法人 大谷石研究会 理事
うつのみや人・街・景観フォーラム代表
陣内雄次

うつのみや人・街・景観フォーラムは、宇都宮市をもっと美しい誇れるまちにすることを目的に、数年前から活動している市民グループです。これまで、宇都宮中心街でのまち歩き、景観フィールド調査、景観に関するシンポジウムや勉強会などを行ってきました。その中でも特に力を入れていたのが、宇都宮餃子会から支援いただき実施している餃子祭りでの景観アンケート調査です。調査の結果、宇都宮市外・県外からもとても多くのお客さまが見えられていることを痛感し、景観の観点から自慢できる資源としての大谷石をぜひ知ってもらいたいと思い立ち、餃子祭りでの大谷石ミニまちあるきを企画・実施した次第です。

当グループのメンバーでは力不足であるため、大谷石研究会に協力を仰いだところ快諾いただき、当日（2011年11月7日）は、まちあるきの案内、パンパ市民広場での大谷石グッズのPRや販売などにご協力いただきました（誌面を借りて御礼申し上げます）。

まちあるきは、午前11時、午後2時の2回（パンパ市民広場出発、各回1時間程度）で、それぞれ10人の募集でしたが、午前は13人、午後は18人と思いがけず沢山の申込みがありました。

コースは、大谷石の建造物として誰もが知っている松ヶ峰教会、3月に飲食店として再生する大谷石造りの旧公益質屋そして日野町通りの大谷石の蔵なども見学しました。

参加者は市内の人が多く、「身近にあるけど、意外によく知らないの・・・」と参加してみたという人も。松ヶ峰教会には初めて入った方がほとんどのようで、みな「素晴らしい!!」と感嘆していました。また、熱心に質問する姿も。

宇都宮の景観にとって大谷石は本当に大切な資源だと再確認した一時でした。当グループとしては、大谷石研究会と協力してぜひ今後も継続したいと考えております。



撮影／宇賀地裕子さん

松ヶ峰協教会

旧公益質屋

大谷石昔ばなし…8

刀傷のある渡辺家四脚門

(NPO法人 大谷石研究会理事広報担当 柏村 祐司)

大谷の渡辺恵美子邸は、茅葺の母屋を始め石屋根の蔵・門などが立ち並び、風情ある姿は、街道を行き交う人の目を誘う。その石屋根の門は、通称四つ脚門と呼ばれ、江戸時代においては庄屋など上層農民でしか構えることの出来ない門である。その門の柱に、生々しい刀傷の跡が残る。

この傷跡は、慶応四年、戊辰戦争で世の中騒然とし治安が乱れる中で起こった、借金等で苦しむ百姓達が起こした世直し一揆の打ちこわしによるものである。一揆の波は宇都宮市を中心に県央全域に及んだ激しいものだった。襲撃の対象は問屋本陣、質取酒造渡世、郷村取締約、庄屋宅が多く、渡辺家は当時荒針村の庄屋であった。渡辺家への襲撃は、ひどいものではなかったが、門に残る刀の傷跡は、幕末の世情を今に伝える。

販売・商品開発
有限会社 KANEHON

〒321-0345 宇都宮市大谷町 350 番地
TEL 028-652-0172 FAX 028-652-0192

国登録有形文化財 小野口家住宅
画廊と庭園

〒321-0344 宇都宮市田野町885
TEL 028-652-0407 FAX 028-652-6360
http://www5.plala.or.jp/toeido/
E-mail:toueidou@gray.plala.or.jp